Track maintenance of memory

the orbit which connects the memory which was being lost and a man

記憶の保線

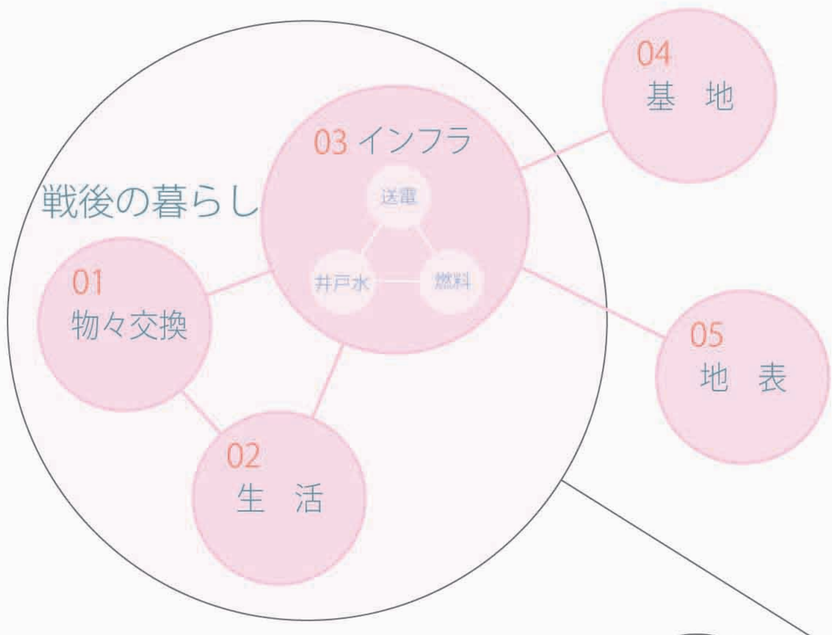
失われかけた記憶と人をつなぐ軌道

Design story

現在、千早地区では香椎副都心土地区画整理事業が進められている。これは福岡都市圏における東の副都心形成を目指し、多種多様かつ高度な都市機能を有した都市環境整備を図るための大事業である。

ところで対象地である千早地区には、昭和期に敷設された広大な操車場が広がっていた。操車場では、博多港において輸出入される貨物の積み替え作業などが行われていた。しかしながら、その機能も僅かな年月で失われ、操車場跡地として近年まで長く存在した。こうした大事業において、千早地区が多彩な顔を持つまちとして生まれ変わり、多くの人が居住することは想像に難くない。しかしこうした大事業によって、まちの表情が急激に変貌する中、地区の過去の顔が考えなしに消し去られてしまおうとしている。過去の顔を知らずして、その地区らしい顔はできない。我々は顔が美しいだけでなく、個性がにじみ出た美しい顔に惹かれはしないか。　また、千早地区は区画整理区域内外が混在しており、新旧住民が混在することになると思われる。千早地区に賑わいを創出するためには、新旧住民が集えるような空間作りが必要なのではないか。

Memory structural analysis



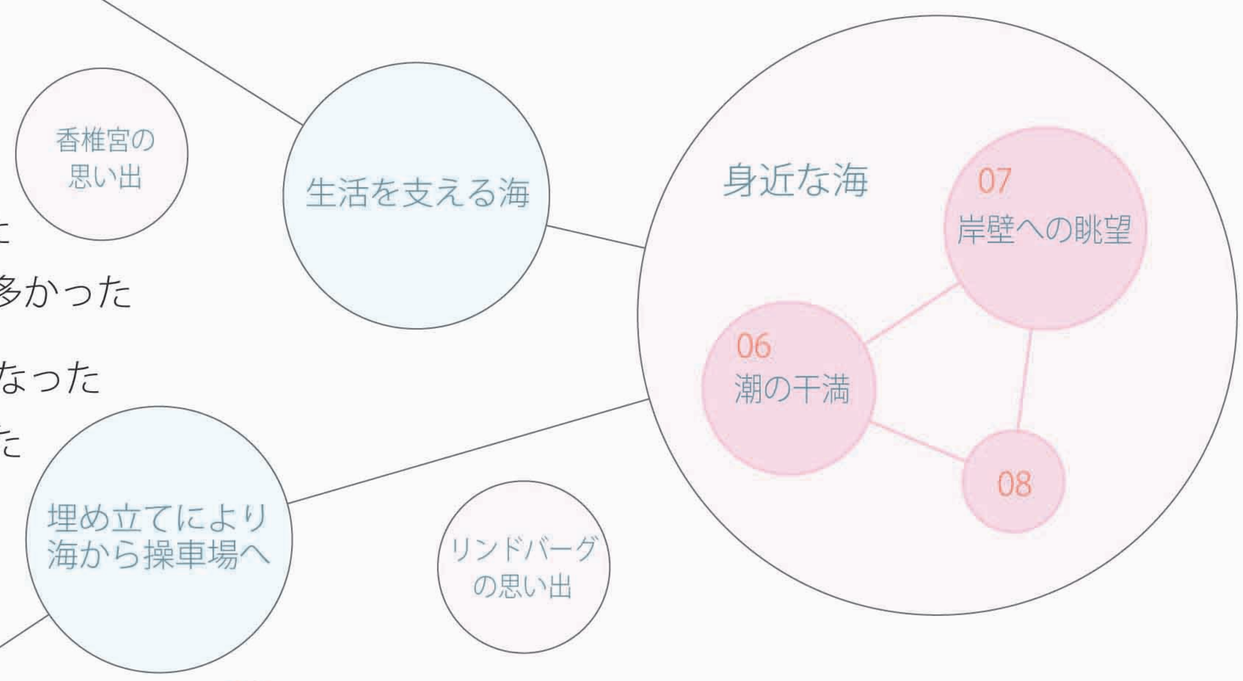
01 住民 (塩・とうもろこしの粉)、百姓 (米・野菜)

02 ガス・水道・電気もなかった
居住を始めた頃から 8 ヶ月のランプ暮らし
食料難で雑草を食べていた

03 送電：ランプ暮らしの後は基地から送電
ろうそく送電の多い中、千早は夜も明るかった
井戸：近くに井戸があり、水には困らなかった
燃料：発電所の廃棄するたきがらで火を焚いていた

04 占領軍の基地が近かった
物資輸送のための引き込み線があった

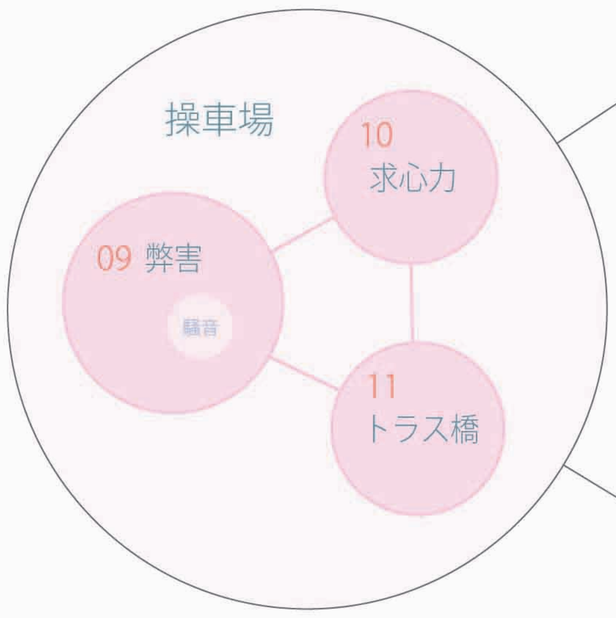
05 赤土 (山の土で埋め立て)・黒土 (たきがらで埋め立て)
が混在した地表



06 満潮時は海の上を汽車が走った
名島の干潟は貝 (アサリ) が採れた

07 満潮時、岸壁で釣りを楽しむ人が多かった
人口増加により水が汚くなった
浄化槽の普及で少しずつきれいになった

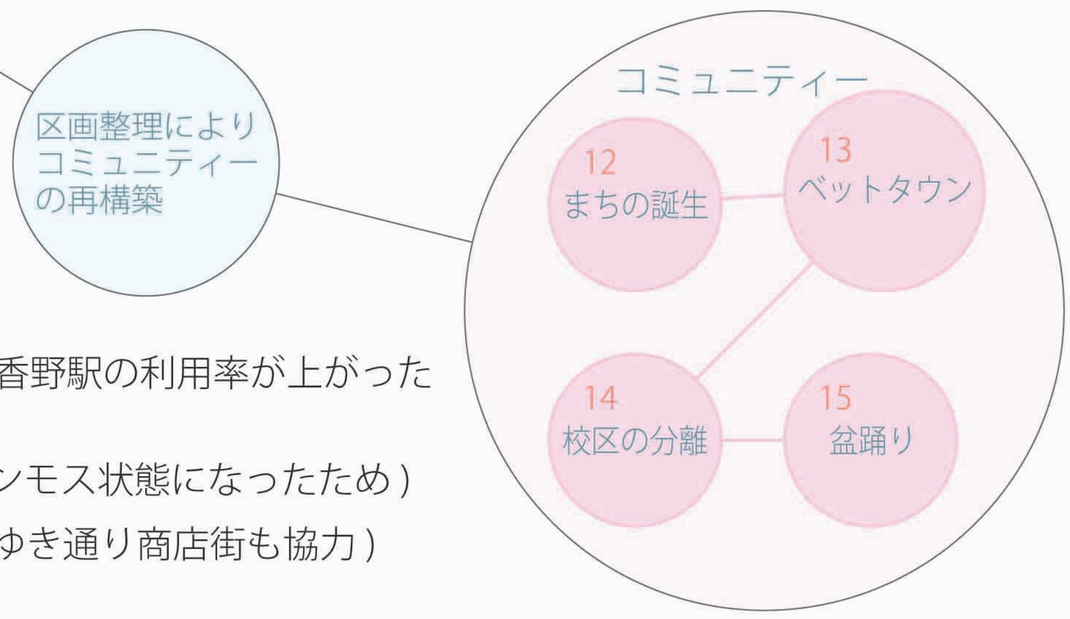
08 干満時にエビがピチピチはねていた



09 千早地区のみならず東区全体の発展を阻害
通学・買い物など交通面で不便
騒音：操車場と踏み切り

10 操車場は悪い記憶だが、当時の方が「千早らしさ」が強い
操車場は生活の一部であり、その記憶は大きい

11 操車場建設の条件が陸橋であった
人が歩きにくかったせいか、後に歩道が確保された



12 千早校区というものがなかった
名島小学校・多々良中学校に登校
後に千早小学校、香椎第一中学校が設置

13 昔はバスが通っていなかった
天神や博多に勤める人が多く、それに伴い名香野駅の利用率が上がった

14 線引きでもめ、公民館設置が困難であった
千早校区が 2 つに分かれた (千早小学校がマンモス状態になったため)

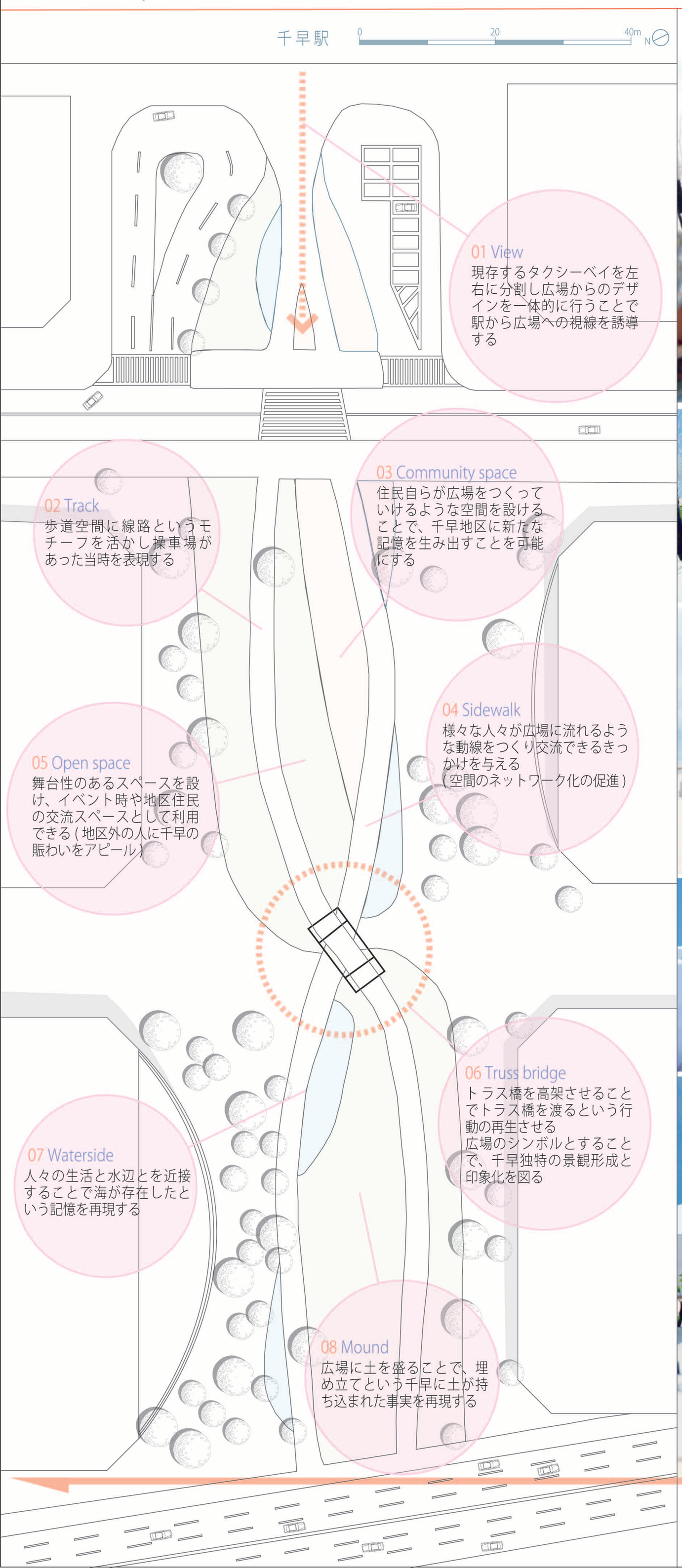
15 千早小から始まり、現在まで続いている (みゆき通り商店街も協力)

戦後、火力発電所から出される焚きガラを使用した埋め立てが行われ、次第に千早地区から海が遠のくことになり、海との共存生活も失われてきた。そのような中、千早地区に操車場が敷設され、海から操車場との生活へと変貌を遂げた。操車場に対する記憶として、交通面で不便であったことや、操車場から発せられる騒音が騒々しかったことなどがあり、あまり良い記憶ではなかったようである。しかしながら、操車場があった頃が懐かしいなどの意見があり、疎ましくも懐かしい記憶として存在していると思われる。

Design concept

操車場跡地である千早駅前には現在、広大な空白地帯が広がっている。本提案では、都市の記憶「線路」をモチーフとした歩道空間を配し、その緩やかな流れによって身近なヒューマンスケールの空間分節を図った。また歩道脇に水辺空間を設けることで、かつて千早近くに存在した海との親水性を表現している。さらに広場中心にシンボリックな装置として、実際に操車場に架けられていたトラス橋を高架させた。都市の記憶としてトラス橋自体の価値を見出すだけでなく、「橋を渡っていた」行動そのものの記憶を再現し、対象広場に「都市の記憶」と今後の「コミュニティー形成」をつなぐ空間を創出した。

Groundplan



Fukuoka University
Landscape and Community Design Lab.